

## 令和6年沼津市教育委員会第1回臨時会会議録

1 日 時 令和6年2月27日（火） 午後2時45分～午後3時50分

2 場 所 沼津市役所 7階 教育長室

3 日 程

(1) 開会

(2) 会議録署名人の指名（重光委員 川口委員）

(3) 議案

議第2号 令和6年度沼津市立小中学校教職員人事異動内申（案）について

(4) 協議事項

(5) 報告事項

報告事項1 沼津市部活動地域移行取組方針について

(6) その他

4 出席者等

教育長 奥村篤、教育長職務代理者 重光純、委員 川口浩史、委員 土屋葉子、  
委員 佐藤清子、教育次長 山本貴史、教育指導監兼学校教育課長兼情報教育推進室長 山崎巖、  
教育企画課長 原将史、調整担当・教育企画課長補佐 内村一徳、  
教育企画課指導主事 栗原克弥

5 会議内容

(1) 開会

奥村教育長が、午後2時45分開会を宣言する。

奥村教育長 先程は、令和5年度沼津市教育委員会教育研究奨励表彰式の出席、お疲れ様であった。本日2月27日という日付は、私が教育長に就任して一年目のこの日に、安倍元首相から、3月2日から末日まで小、中学校、高等学校を休業にするよう指示が出た非常にインパクトのある日であり、忘れられない日である。早速だが、本日の教育委員会臨時会をお願いする。

(2) 会議録署名人の指名

奥村教育長より、会議録署名人に重光委員、川口委員を指名する。

奥村教育長より、本日の会議は非公開とすることを委員に諮り、了承される。

<議 案>

奥村教育長 日程（3）議案である。

---

議第2号については、人事案件であるため非公表とする。

<協 議>

奥村教育長 日程（4）協議事項は、本日は案件なし。

---

報告事項については、公表前の事項が含まれているため当日は非公開としたが、公開できることとなったため公開する。

<報 告>

奥村教育長 日程（5）報告事項である。

報告事項1 沼津市部活動地域移行取組方針について

＜少子化が進む中、令和4年12月にスポーツ庁及び文化庁が「学校部活動及び地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」を公表し、中学校部活動を地域移行する方向性が示されたこと等を受け、本市においても、具体的な対応が求められることとなった。このため、本年度から幅広い関係者等で構成した協議会を設置し、意見を伺いながら、本市としての取組方針（案）を作成した。今後、パブリック・コメントを経て、令和6年5月の策定を目指し、関係者への周知・浸透を図りながら、事業の推進を図っていく。＞

（教育企画課長 資料に基づき説明）

奥村教育長 説明が終わった。昨年度の総合教育会議で取り上げてから、1年しか経っていないが、ここまでの取組方針（案）が出されたということは、スピード感のあることだと思う。ゴールに向かって一つ一つのことを解決しなければならないため、今年度中にはある程度固めて周知していかなければならない。御質問等あればお願いしたい。

佐藤委員 資料の中に、中学校教員の土日に部活動に関わる時間が、10年前と比較して約2倍となっていることが書かれてあるが、現状、部活動の数は減少している。数が減っているにも関わらず負担が2倍に増加している要因は何か。

教育企画課長補佐 学校が小規模化していることで、教員の数が減っているというのが一つある。現場の声を聞くと、以前は複数顧問によって交代で部活動を運営することができていたところ、単独顧問で行わなければならないような状態が増えてきたとの声もある。国の資料からも、全国的にそういった傾向があることがわかっている。

川口委員 この件は、一人一人の大きな意識改革がポイントになってくると思うが、結局は今現在関係している子供ではなく、数年先で関係してくる子供やその保護者

が対象となるために、その周知の仕方が難しい。極端に言えば、現在小学1年生の子供たちやその親に、「先々でこうなります。」と示していかなければならない。しかし、その示された人たちは、いざ当事者となってみなければわからないと思う。当事者として直面した際に、「困ったときはここに色々説明が書かれている」ことが予め刷り込まれていれば、少し安心材料になるのではないかと。情報発信の仕方は重要である。

教育企画課長 現在、教育委員会 HP 内に特設ページを設けており、児童生徒、保護者向けにリーフレットをこれまで3回配布している。また、広報3月1日号特集記事において、部活動地域移行について大きく取り上げ、細かい年次までは示せないものの、部活動が今後大きく変わっていくことについて、全市民に対して周知をすることとなっている。委員のおっしゃるように、今すぐに部活動がなくなるのか、今後いつなくなるのか、と当事者たちは非常に気になっていることと思う。もう一つ、スポーツ指導団体等へ向けて、「あなた方が次の担い手である」ことを伝え、意識を喚起していくことも重要だと考えている。部活動地域移行は、学校から部活動を切り離すこと、部活動という名称がなくなることであるため、受け手側の意識についても、併せて喚起していく必要があると考えている。そうした意味で、受け手側をスポーツ部門において担う市長部局であるウィズスポーツ課も協議に加わり、来年度拡大予定の実証事業にも今後協調して取り組んでいく予定である。

奥村教育長 目標年度として、休日が令和10年度となっていたと思うが、競技種目によっては、令和10年度より前に体制が確立していれば変わっていき、この年にガラッと一斉に変わるということではないと思う。できるだけソフトランディングしながら、目標年度に向けて動いていくというのがベストだとは思う。委員がおっしゃるように、当事者として該当する子供たちは先々のこととなる。そうした面において、現在小学校の教員にも理解は必要なことと思う。保護者の方々も、小学校教員からの情報収集が必要になってくるため、ある程度の理解はしておくべきである。

川口委員 この移行にかかる微妙な期間において、過渡期は先生方も大変かと思う。

奥村教育長 現状2人の教員が兼職兼業という形で、実証事業に携わってくれている。

教育企画課長補佐 部活動から手を引きたい教員がいる一方で、部活動を教えるために教員になったという志望動機の教員もいる。そうした方は、兼職兼業としてしっかりとやっていただく。その覚悟や準備も含めて、この期間を設定させていただいている。現状を伺うと、自分の専門種目に顧問として就けていないという事例は多い。中学校においては、実態として若手教員が引率等大変な部活顧問となる例が多かったりもする。実際顧問にアンケートを取った際、このままの顧問を続けたいと思っている教員は全体の2割程度であった。さらに細かく聞くと、「現在自分が顧問となっている部活動は続けたくないが、自分の専門種目である部活動ならば続けたい。」という教員も一定数いることがわかった。そうしたミスマッチを解消していくために兼職兼業で引き続き指導していただくといった方法がある。いずれにしても、教員が一気に手を引いてしまうと活動が全くできなくなってしまいうため、そうした部分の準備、体制づくりに協力させていた

だきながら、子供たちの活動場所が維持できるような形で、部活動地域移行を進めていきたい。

奥村教育長 5年以上前のデータにはなるが、約6割の先生方が専門外の種目を担当しているということであった。

佐藤委員 先日、東京で行われた研修会分科会に参加した際、部活動地域移行について他市町（千葉県、茨城県、埼玉県、鹿児島県）の話を伺った。どこも進み具合は同じような印象であったが、大学のバレーボール部に教室をお願いしているといった事例もあった。アンケートをとったところ、生徒は「先生に教えてほしい」、教員や保護者は「専門家に教えてほしい」、大学生やスポーツクラブ団体は「日曜に指導するのは望まない」といった声が多いことがわかった。また、土日の部活動は家族と過ごす時間が減るため望まないという声は、生徒側もそうだが、教える教員側からも多い。千葉県四街道市においては、複数校の生徒が一つの練習拠点に集まって活動を行い、その費用については県が負担、保護者は保険料の800円のみを負担しているということだった。そのほか、「平日と休日とで受ける指導者が変わると生徒が戸惑ってしまうという課題がある」、「そもそも、休日に指導することが必要なのか」、「民間移行するのに必要なのは、しっかりとした手引きではないか」、等の意見が出ていた。

奥村教育長 資料にもあるとおり、現在本市では部活動は任意加入となっており、部活動は義務ではなく、ほかの活動に時間を充ててもよいとなっている。ヌマカツにおいては、バリバリ取り組む競技志向と、楽しみたい生涯志向に区分けした対応が可能となったり、平日活動と休日活動とで複数種目に取り組むような分離が可能となったりする。このように様々なバリエーションが考えられるが、共通して言えるのは、子供がやりたい活動を保障することである。そこには当然、費用もかかるし、指導者の生活スタイルも守らなければならないといった課題がある。

佐藤委員 先日も、ほとんどが受益者負担という意見だった。

奥村教育長 県内では掛川市が先行して進めているが、受益者負担である。単純に言うと、習い事が一つ増えたと考えたら理解しやすい。

教育企画課長補佐 会費も大体月6,000～7,000円になると伺っている。

奥村教育長 部活動はお金がかからないという認識から大きく変わるため、まさに意識改革である。

佐藤委員 保護者は、以前の部活動を体験している立場なので、受け入れられるどうか。戸惑いは大きいと思う。いざ当事者になって驚くパターンが予想できる。

川口委員 元々、中学校の教育課程の一環として行われていた部活動が、地域に完全に移行されて、担い手が地域の任意団体となる。今まで我々が部活動と呼んでいたものを廃止して、その肩代わりとして、学校の施設等を使って多くの生徒が活動できる機会を提供する、といった話なのかと思う。今までは、学校に活動したい子供が一定数集まればとりあえず顧問がつき、その活動が可能となっていた部活動だが、今後は地域にその担い手が必要となる。担い手があるのとないのでは、体験できるスポーツのレベルが分かれてしまうのはやむを得ないことかと思う。地域移行という言葉はあるが、そもそも従来の部活動はなくなる

- ということをまず説明していく必要がある。
- 奥村教育長 民間のスポーツクラブとなると、市町は関係なくなり、様々なところから生徒が集まる。
- 重光委員 従来の学校対抗といったイメージがなくなるのは仕方のないことである。
- 佐藤委員 自分の息子も、在籍していた部活動が途中で廃部となり何度か変わったことがあった。それほど、以前から指導者がいなくて選択肢は少なかったということである。過去にも、顧問以外にその種目の専門家を招いて指導を受けることはあった。地域のできる方に指導をお願いするというのは以前から行われていた。
- 奥村教育長 私も学校に在籍していた頃には、いつも地域の外部指導者の方とペアで部活動を行っていた。
- 教育企画課長補佐 現状を見ると、すでに外部コーチとして地域や保護者の方々が指導者として部活動に入り込んでいるという実態はある。今後、そういった熱心な方々が受け皿として候補となっていく可能性があるが、個々では負担が大きくなってしまいうため、団体にしていくことが必要だと考えている。例えば事務処理が大変ならば、行政で一括して請け負えないかといった検討等を進めていきたいと思っている。
- 佐藤委員 これまでは無償で指導していただいていたのが、民間移行によって有償になるということである。
- 教育企画課長 持続的に取り組むためには、高額ではないにしても対価があつてしかるべきと考えている。
- 土屋委員 先日ニュースで、静岡市では各校の生徒数の減少によりチームプレイでの部活動ができなくなり、地域ごとに生徒を集めて活動しているといった内容を報じていた。それまで少人数で活動していたこともあり、多くの人と一緒に活動でき、友達も増え、喜んでいるようであった。
- 奥村教育長 沼津プラスフィールドの現在の規模はどのくらいか。
- 栗原指導主事 10校から19人が集い、生き生きと活動している。
- 奥村教育長 静岡市の例では他校の生徒から、沼津プラスフィールドにおいてはさらに社会人からも刺激を受けているため、自然と技術力が向上したり、意欲の向上にもつながったりしている。
- 重光委員 部活動というより学校や年齢をまたいだ同好会といったイメージである。
- 佐藤委員 単独の学校だと人数が少なくて野球ができないのが、他校と一緒にすることでできるようになるという感じである。
- 重光委員 以前、小中一貫学校になる前の長井崎中学校に視察に行った際、別の学校と合同チームで活動している様子を見た。
- 川口委員 浮島中学校も合同で活動していた。
- 教育企画課長補佐 野球に関しては特に合同が多い。このままでは、バレーボールですら合同になりそうな規模だと現場から聞いている。
- 奥村教育長 先日、沼津の小学生が所属する学童野球の選抜チームが東部で優勝した。各地区から参加している児童の数はそれぞれ少なかった。中学校の部活動を考えたときに、この人数では活動できないと思った。沼津リトルシニアのようなチームが一般的となってくるかもしれない。早い段階から硬式野球に取り組む形に

なっていくのではと思う。

- 土屋委員 韓国では、学校における部活動がない。
- 川口委員 アメリカでは、季節ごとに様々な部活動に取り組めるようになっている。
- 奥村教育長 部活動には実際様々な形がある。ヌマカツという名称は確定しているのか。
- 教育企画課長補佐 確定している。
- 佐藤委員 この資料を見て思ったが、まず、競技志向・生涯志向についての説明をもっと大きく取り上げた方が、その後の実施体制や手順についての説明もわかりやすくなるのではないか。
- 教育企画課長 この後、パブリック・コメント等で市民からの御意見をいただく機会もあることから、委員からの御意見もふまえて、最終的に5月に取りまとめる際に調整させていただきたい。
- 奥村教育長 静東教育事務所管内で、現段階でこれまでの方針を打ち出している市町はない。沼津市は最先端となっている。沼津市の動きをどの団体も注視しているような感じである。
- 佐藤委員 これからの取組において、しっかりとしたガイドラインは必要である。
- 奥村教育長 教育企画課長からの説明にもあったように、仮の計画内において、そういったものを作成していく。
- 佐藤委員 色々と解決していかななくてはならない課題がある。
- 奥村教育長 課題は山積している。明日から本会議の代表質問が始まるが、部活動地域移行に関して、今後どうなっていくのかという質問が出ている。先程も説明したとおり、今後はまず文教産業委員会にお示しするという形で進んでいく。ほかになれば、本件については報告を受けたということで御了承願う。

<その他>

- 奥村教育長 日程（6）その他、何かあるか。  
なければ、本日の臨時会を閉会する。

午後3時50分 閉会